

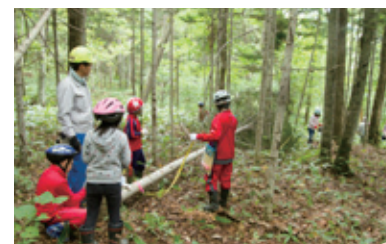
ただいま活動中



NPO法人
森の生活



下川町の財産である豊かな森を舞台に、人と町をともに元気にする事業がおこなわれている



下川町では子どもたちの年齢にあわせて森林環境教育のカリキュラムが導入されている。写真左の中央が「森の生活」代表の麻生翼さん



林業の町で「森」と「人」をつなぐ

北海道北部に位置する下川町は、かつて鉱業が栄えていたが、鉱山閉鎖後は過疎化が進み、一時は1万5000人以上いた人口は、現在約3600人。しかし、ここには、町の面積の9割を覆う森林という貴重な財産がある。

町は1953年に国有林の払い下げを受けて以降、森林を整備し、循環型の森林経営システムを築いてきた。適切に管理された森林に与えられる国際認証「FSC森林認証」を、北海道で初めて2003年に取得。木質チップを使ったバイオマスボイラーを導入するなど、低炭素型のまちづくりが評価され、08年には環境モデル都市に、11年には環境未来都市に指定されている。

NPO法人「森の生活」（北海道下川町）は、森林体験など、森を舞台にした活動に取り組むグループだ。その母体は、イターン、Uターン者を中心に、97年に結成された「さーくる森人類」だった。

「移住して森林組合で働き始めたものの、思い描いた生活と違うと感じて去る人が少なくありませんでした。そこで、移住者が語り合い、活動する場として『さーくる森人類』が発足し、森づくりや森林・林業体験ツアーの実践

を対象にした森遊びの指導に携わっており、現在は、幼児から高校生まで、体系的な森林環境教育を担っている。09年からは、指定管理者として、都市住民と町民との交流を促す地域間交流施設「森のなか ヨックル」の管理運営もおこなっている。

「森や田舎暮らしに対し、それぞれに思いを抱いて移住した人たちの活動が、少しずつ地域に浸透し、協力関係ができてきました。僕たちは森林のソフト面での利活用を実践しています。森林資源をどのように利活用するか、ソフト面の充実、木材の価値を高めるうえでも大事なことです。下川町にとどまらず、北海道の森林を使いこなすモデルケースになればいいと思います」（麻生代表）

日本は国土の7割が森林だ。その森林率はフィンランド、スウェーデンなどと並ぶ高さだが、安価な外材の輸入に押され、衰退しているのが日本の林業の現状だ。「森の生活」は、道内の森林の利活用状況を調査し、『北海道森で元気になる！白書』を13年2月に発行した。さらに、地域内外の人々とともに森林活用を進めていく、プラットフォームづくりも進める計画だ。こ

を始めたのです。森林療法に注目が集まるようになって、下川町でもそれを事業にする動きが起こったとき、森林体験のノウハウを蓄積していた『さーくる森人類』も、事業化に向けて動き出しました。これを機に名称を変更し、05年にNPO法人化したのです」と、「森の生活」の代表を務める麻生翼さんは話す。

森林療法とは、「健康のために森林を活用すること」だ。「森林浴」という言葉もあるように、森林環境は、リラクゼーションや健康増進に効果があるといわれる。下川町では、05年に産学官協働の「しもかわ森林療法協議会」が設立され、森林療法の事業化が進められた。協議会が12年末に解散したあとは、森林セルフケアの体験事業を「森の生活」が引き続きおこなっている。

現在の主な活動は、「森林体験事業」「森林環境教育」「宿泊事業」の3つ。体験事業は「森林セルフケア」「林業体験」などのメニューがある。

また、下川町では07年から、幼児センターから高校まで一貫しての、森林環境教育のカリキュラムが導入されている。「森の生活」は、06年から幼児

これらの活動は、セブンイレブン記念財団の助成を得ておこなわれている。

麻生代表は名古屋出身。北海道大学を卒業し、下川町に移住した。まだ二十代の若さだ。休日は畑や山歩きをし、畏れの免許も取得した。北海道名寄市出身で、静岡で生活後、98年に下川町に来た瀬川悦弘副代表、愛媛県松山市から移住して林業に従事し、チェーンソーアーティストの顔も持つ児玉光副代表ら、メンバーは個性派揃い。

「自発的な動機がなくては、そうそう訪れないような場所ですから、メンバーは熱意がある人ばかりです。目的はさまざまでも、自然や地方の生活に惹かれて来た点は共通しています。下川町は移住者が多い町で、移住者同士の仲がいい。地元の人から移住者をよそ者扱いせず、僕たちの提案を真摯に聞いてくれるところもありがたい。いろいろな生き方が許容される、大きな可能性がある町で、この環境を生かして林業を底上げしたいと考えています。距離は遠くても、誰もが森林の恩恵を受けているはずで、森と人の心の距離感を、もっと狭めたいですね」（麻生代表）



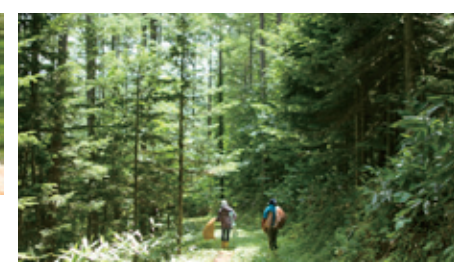
トドマツの枝葉を集めて卓上蒸留器で蒸留し、エッセンシャルオイルをつくるプチ蒸留体験。蒸留後の葉を使った足湯も人気だ



宿泊施設「森のなか ヨックル」。夏場は敷地内のガーデンで栽培する野菜やハーブで自炊もできる



宿泊とセットで楽しむ冬の夜のムーンウォーク。神秘的な世界を体感できる



森林浴はストレスに満ちた現代人の心身を癒す。フィトンチッドの多い針葉樹の森はもっとも効果が高いといわれる



セブンイレブン
記念財団が
支援しています